

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 東郷 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

教科に関する調査(国語、数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校3年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	書くことや情報を読み取る力については、しかし、文章を読み取ることや、話を聞き取ることを苦手としているため、国語の授業と読書の取組を通して文の内容を読み取る力、聞き取る力の育成を図る必要がある。
	よくできた問題	知り得た情報を基にして、自分の考えが伝わる文章になるよう、根拠を明確にして書く問題
	努力が必要な問題	場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する問題

数学	全体的な傾向や特徴など	数学に対しての苦手意識がある生徒が多い。基本的な数と式を苦手としており、データを活用し、特徴を読み取って説明することに対して特に苦手意識が高い。
	よくできた問題	多数の観察や多数回の試行によって、得られる確率の意味の理解を問う問題
	努力が必要な問題	自然数を素数の積で表したり、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する問題

理科	全体的な傾向や特徴など	どの領域においても、努力を要するが、「生命」を柱とした領域については、興味をもって学習を行っているため、正答率が高い。
	よくできた問題	選択肢による「エネルギー」「粒子」「生命」を柱とする領域の問題
	努力が必要な問題	力のはたらきに関する知識及び技能を活用して、物体にはたらく重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明する問題

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話、スマートフォン等の使い方について、家庭での約束事は守っているが、SNSや動画視聴等の時間が3時間以上の生徒の割合が多い。 ・教師から褒められていると感じる生徒の割合は多いが、自分にはよいところがあると感じている生徒の割合が、全国よりも少ない。 ・「いじめ」に対してはどんなことがあっても許してはいけないと思っている生徒が多く、教師に相談しやすいと感じている生徒の割合が多い。 ・自分で計画を立てて勉強をしている生徒の割合は多いが、平日の学習時間が1時間未満、土日は2時間以内の生徒の割合が多い。 ・家庭での読書の時間が1時間以内の生徒の割合が非常に多い。また、新聞を読む生徒が少なく、NIEの活動を生かした授業展開をする必要がある。 ・地域の行事に参加している生徒の割合は多いが、地域の大人に勉強スポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりする生徒の割合は少ない。 ・学習の中で、タブレットなどのICT機器を使った学習が役に立つと考えている生徒が9割ほどいるため、教科の学習の中でICT機器を積極的に活用していく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・国語…興味関心の高い生徒が多いため、朝読書やNIE等を利用し読み取る力、聞く力を育成する。 ・数学…数学に対する苦手意識は多いが、社会へ出て必要だと感じている生徒は多い。そのため、基礎的な計算力をつける活動を増やすなどの授業展開の工夫や補充学習を行う。 ・理科…理科に対する関心は普通だが、将来社会に出た時に必要だと感じている生徒が多いため、身の回りの事象などを基にした授業展開を工夫していく。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・SNS等の利用時間が長いと、生徒会活動とタイアップしたきまりなどを全校生徒に周知し、スマホ電源10時オフなどの活動を実施する。 ・家庭学習の行い方などを生徒に具体的に示し、家庭学習に取り組みやすくする。
